

Hop Step Jump

2

初任者研修第 3 回

人権について考える①

アンケートの感想から

人権をテーマに、5月13日、20日に箕面市教育センターで、第3回の初任者研修が行われました。

講師にお招きしたのは、神戸親和女子大学教授、新保真紀子先生でした。先生は中学校の現場で実践を重ね、大人教の事務局長として、そして現在、大学において将来の教員の育成のために、尽力されておられます。大人教での取り組みから、『小1プロブレム』という言葉を広く発信された先生でもあります。

先生の本当に温かいお人柄と、そこから発信される、実践と研究に裏打ちされた熱のこもった講義をうけ、先生方も多くのことを学び取ってもらえたのではないかと思います。ではその感想から、

4月になって、いよいよ自分が社会人として働くとなったときに、ワクワクしていたのですが、今、私はその気持ちが薄れてきています。子どもと関わるのが少し億劫になってきました。しかしこんな気持ちのまま、毎日子どもと関わってはいけない、また明日から気持ちを入れかえて、今日学んだことを活かし、がんばっていきたくて思いました。

とても正直な気持ちだと思います。講義を通して教師としての立ち位置を考え、内なる自分と対話したのではないかと思います。次の先生も、

自分はいじめであまり学校に行けず、子どもたちに居場所が持てるような手助けをしたいと思って教師になった。自分はどうしても『自尊感情』が低く、ネガティブな悪循環な思考に陥っている。だからこそ子どもたちには「やれたやん！」「その調子や！」と1回の授業で1人1回は小さいことでもほめられるように努めてきた(つもり)(と言いつつあまりできないが)。放課後学習では、しんどい子に問題が解けた度にハイタッチしたり喜びを共感したり。授業でも「分からへん！」と言えるようになってきたし、かつそれを教えられる子をつくれてきた。今回の研修を通じて、教科でも「温かい授業」づくりをもう一度ゼロから再考し取り組んでいきたい。

『自尊感情』は今回の研修のキーワードの1つです。新保先生ははじめに「あなたはなぜ、せんせいに？」と問われました。そして多くの先生方が自分自身とも向き合いながら研修が進みました。教師の立ち位置や視点など、多くの示唆をいただきました。この感想の先生のように、一步一步がんばっている先生を本当に大切にしたいと思います。

怒りやよろこび、妬みや悲しみ…ネガティブだろうとポジティブだろうと感情は湧き出るもの、優劣はありません。子どもたちに感情の豊かさに気づかせてあげることも重要な取り組みです。

『今、どんな気持ち』のワーク。是非やってみたいなと思いましたが。子どもたちの伝える力が弱いな—とっていたのですが、原因が「自分の気持ちを言葉にできないのでは」と考えたことがなかったので、いろいろ投げかけて、やっていこうと思いました。

このワーク、中学校でも使えます。もしかしたら中学校でこそしなくてははいけないかもしれません。教師が感情を大切にできれば、子どもの“Doing(していること)”でなく“Being(いてくれること)”そのものを認めることにもつながります。

『今、どんな気持ち』『アサーティブな対応』『これがわたし!』『わたしだけのアルバム～All about me』『いいとこさがし』…これまで様々な実践が行われ、いろいろ本にもまとめられています。探してみてください。本当はもっとたくさん紹介したい感想はあるのですが、最後に

人権教育とは堅いイメージがありましたが、“目の前の子を視る”といういたってシンプルなところを出発点にできるのだと思えました。



うきうき

That's right!

(出典)大人教 HP より